

国立国語研究所 第14回「ことば」フォーラム

ビジネスや留学にいきる言葉の力とは？

後援

目黒区・目黒区教育委員会

協賛

(株)大修館書店 (株)アルク 日本語文章能力検定協会 日本言語テスト学会

日時 2003年 3月15日(土) 午後1時～4時

会場 中目黒 GTプラザホール

プログラム

13:00～ 開演

ごあいさつ

甲斐 睦朗 (国立国語研究所)

講演

13:05～ 「言葉の力とは」

菅井 英明 (国立国語研究所)

13:20～ 「日本人の文章力」

樺島 忠夫 (大阪府立大学名誉教授)

13:45～ 「外国人の日本語力」

西原 鈴子 (東京女子大学)

14:10～ 「韓国ビジネスマンの日本語力」

李 明姫

(新羅大学校/東京学芸大学)

14:35～

—休憩—

14:50～ 「日本人の英語力」

Randy Thrasher

(沖縄キリスト教短期大学教授/国際基督教
大学名誉教授/日本言語テスト学会副会長)

15:15～ 「ヨーロッパの言語テスト」

杉本 明子 (国立国語研究所)

15:40～ 質問コーナー

16:00 閉会

御用のかたは係の者までお願いします。黄緑色の名札をつけています。

手話の見える位置は限られています。席を譲り合ってお使いください。

会場に国立国語研究所の刊行物を展示しています。どうぞ御覧ください。

言葉の力とは

菅井 英明

(国立国語研究所)

sugaih@kokken.go.jp

1. 言葉の力とは

言葉の力とは何なのかについては、様々な定義があります。まず言葉の力について考える切り口として次の例を御覧ください。

例(1) 晩御飯はうなぎがいいです。

例(2) *スポーツは体がいいです

【*印はある文や表現に対し、使い方が適切ではない、あるいは間違っているのではないかと感じるものにつけています。】

この場合、「何々**は**何々**が**いいです」という基本的な文の作り方は一見同じなのですが、実は「スポーツは体**に**いいです」といいたかったのでしょうから、助詞の選び方が間違っています。

次の例を御覧ください。

例(3) A: 一体何回言えば分かるんですか。(相手を非難する口調で)

B: *三回です。

B: すみません。

「三回です」という言い方は文法的には正しい文なのですが、相手が非難しているような口調で、謝ることを要求しているような場面ではこのような表現は不適切です。

もう一つ見てみましょう。

例(3) A: ドリアンってどんな果物?

B: うーん、皮はとげがあって実は白くて甘くて・・・(まず描写してみる)

A: ふーん(描写だけではあまりイメージが湧かない様子である)

B: *それで皮は硬くて割った後捨てるんだ・・・(描写を更に続ける)

B: クリームみたいなやわらかさでアイスクリームのように甘いんだよ。匂いは納豆みたいだと言われているけど

外観を描写するような話し方ではいつまでたっても相手にはそのモノのイメージが湧いてきません。そこで、この例では、Bさんは教えたモノの特徴を、相手も良く知っているモノになぞらえるという話し方に切り替えてようやく分かってもらえました。

人には、ある文の構造が正しいとか、ある場面がその文を使うのにふさわしいとか、ど

んな方法だと発話や文章が他の人によく伝わるのかなどを判断する力があります。応用言語学という言語学の分野があって、人はどのように言葉を身につけるか、あるいはどのように教えれば言葉が身につくのかなどを研究しているのですが、そこでは言葉の力とはおよそ今のような三つの能力のことであり、そしてこのような力は、「言葉を用いて特定の状況において特定の目標や目的を達成する」ためにある力だろうといわれています。

2. 言葉の力があるかどうかをどうやって知るのか

言葉の力が「ある」というためには、言葉を用いて特定の状況において特定の目標や目的を達成することができれば良いのですが、その特定の状況や目的とはどうやって決まるのでしょうか。

例えば仕事に使える語学力があるかどうか見たいと言う場合・・・

- (1) 仕事をしている際に言葉を使う状況や場面、というのは一体いくつあるのでしょうか？会社、事務室、打ち合わせ、電話対応・・・無限にある？
- (2) その目標、目的とは何でしょう？相手を説得する、相手の共感を得る、効果的な発表をする、内容の伝わる文書を書く、同僚にぐちをこぼす・・・無限にある？

言語使用の場面と目的は一見無限にあるように思われますが、言葉の力に興味のある研究者は、言葉が使われている状況での言語使用者・文脈・談話などを丹念に観察して、言葉の力を知ることができる様々な手法を考えてきました。

本日は、ビジネスや留学という、言葉が使われている場面や目的を比較的イメージしやすい状況を例として、それらの状況に生きる「言葉の力」とは一体何なのか、私達はそれをどうやって知ることができるのか、を考えていきたいと思います。

3. 本日のフォーラムで素材として用いられるテスト等の紹介

本日お話しくださる方々は、言葉の力とは何かを考える際の素材としてビジネスや留学と関連したテストを用います。ここで、これらの言葉のテストについて簡単に概要を説明いたします。

◆ 日本語文章能力検定

日本語文章能力検定協会が1997年以来実施しているテストで、受験者の文章に対する能力を、内容把握能力・構成能力・表現能力・作成能力という4つの観点から判定する検定試験です。試験は、年に3回の実施で、級別に分かれており、「1・準1級」「2級」「準2級」「3級」「4級」「5～7」級となっており、自分の文章能力に合わせた級を選べるのが特徴です。受験者数は2001年には、1万5千人となりました。

各級によって出題分野は違うのですが、「1・準1級」では、通信・報告・小論文の構成、文章の推敲、論説・提案の文章を書く、等の分野から出題されています。

◆ 日本留学試験

日本留学試験は、日本の大学に留学を希望する外国人の、大学等で必要となる日本語力及び基礎学力の評価を行う試験です。2002年より年2回、日本国内と国外八カ国で実施されています。

日本留学試験の試験科目は、日本語、理科(物理・化学・生物)、総合科目及び数学です。日本語の部分は聴解、短い文章を読みながら聞く聴読解、読解、小論文形式の記述から構成されています。実施が開始された2002年度には2回の試験で合計2万6千人が受験しました。

◆ 韓国 JPT (ジェーピーティー: Japanese Proficiency Test)

JPTは学問的な日本語の知識の多さを測定するのではなく、言語本来の機能であるコミュニケーション能力を測定することを目的としています。日本人と話しているという前提のもとに試験が進行し、コミュニケーション能力の水準を評価することを目指しています。

JPTは聞き取りと読解から成り、全ての受験者が同じ問題を受ける形式で、最高点は990点です。点数による能力評価表が公開されており、例えば880点以上を取った受験者の能力は、「どんな状況でも的確な対応が可能ぐらい優れたコミュニケーション能力を持っている」、とされています。試験は社会的な有用性が高く、韓国電力公社、韓国観光公社のような公的機関、及びロッテ建設、LG-LCDなどの会社でも新入社員の選抜、昇進テスト、日本派遣者選抜などに利用されています。

◆ TOEFL (トーフル: The Test of English as a Foreign Language)

TOEFLは、アメリカの高等教育機関に入学したい、英語を母国語としない外国人の英語力を測定するために1964年に始められた試験です。また、大学入学以外にも各種の政府機関、奨学金プログラムなどにもその成績が利用されています。アメリカのニュージャージー州にある民間団体ETS (Educational Testing Service) が実施し、全世界で毎年およそ85万人の受験者がこの試験を受けています。日本では、TOEFLのスコアで550点を取ることが、現職の高等学校の英語教員に目標として課されることになりました。

現在のTOEFLの受験形式には、従来からの紙を用いた形式のものと、2000年から導入されたコンピューターを用いて受験する方式の二通りがあります。いずれの形式も、リスニング、構文・文法問題、読解問題、小論文から構成されています。

◆ ALTE Framework (アルティー・フレームワーク)

ヨーロッパでは、各国で様々な言語テストが作成されていますが、各国でその内容やレベルが異なっています。ALTEは異なるテストの内容を比較して共通の枠組みを決めるヨーロッパの言語テスト実施・研究の共同機関です。

これらのテストから、どのようにして言葉の力を知ることができるのでしょうか、そしてそこから言葉の力に関するどのような側面が浮き彫りになるのでしょうか。会場の皆さんと検討していくことにしましょう。

日本人の文章力

樺島忠夫

(大阪府立大学名誉教授)

1 日本人は文芸的な国民である

ア 俳句、短歌、川柳を作る人が多い。

イ 小学校や中学校で指導する作文も文芸的なものを目指していた。

過去の小学校、中学校で児童、生徒に書かせようとしていた作文は、感動を書かせる私小説めいたものであった。書き手自身の日常体験を客観的に捉えるよりは、心情に力点をおいて書くというものである。

感動することはそんなにしばしばあるものではない。「感動を書く」よりも、「読んだ人が感動する」作文になり、貧しい子どもが苦しい生活を描く作文がよい作文になる傾向があった。

2 日本人には、読み手にわかる文章、論理的な文章が書けない人が多い

ア 内容を分析して書くよりは凝縮して書く傾向がある。

(例1)

所得水準の向上や労働条件の安定などによって生まれてくる、生活の時間的、精神的ゆとりを十分に活用し、これからの生活を楽しむための一つ的手段として、旅のあり方をここで考えてみたい。(地方公務員の文章から)

(例2)

自動処理に用いる固定・可変とは、一枚目を作成したときの野線情報に対し、二枚目以降の表の構造が、例えば、列数各列間隔が等しいが、行数が一定でない表が続くような場合には、行可変・列固定、というように、行(列)数、各行(列)間隔が一定か否かを固定・可変によって指定します。(マニュアルの文章から)

これらは、修飾語を多く持つ長い文になっている。書こうとする内容を分析して書く余裕がない。

文章は簡潔に書くものである、という考えを持っていると、ますます理解困難な文を書くことになる。

イ 論理の筋道が狂う

(例3)

現代において、様々な情報社会の多様化は不可欠なものである。しかしそれと同時に、情報をどの様にして、自分のニーズにあったものだけを、選択する必要性があるのではなかろうか... (中略)... 個人情報が多様な形で流通していることにも、注目しなければならない。簡単に買い物ができる、インターネット上のショッピングは、楽しく、便利である反面危険が背中合わせにあることを、忘れてはならない。一旦、情報が流通すると、我々の手でそれを防ぐことは、むずかしいと考えられる。それは悪質な商品、悪質な業者だってあるのだ。画面上での判断では、難しい事が多すぎるのではないだろうか。私個人としては、いくつかの店をまわったり、あるいは、旅先で見つけた物にこそ愛着を感じるものである。(文章検定2級受検者の文章)

インターネットを通しての購入の問題とプライバシーの問題とが分離されずに述べられている。

3 今必要な文章力

ア 情報社会の中で必要な文章力。

事実を客観的に伝えること。

伝達しようとする内容を十分に分析して述べること。

他人によく理解される表現・組み立てで述べること。

イ 学校では文章を書くスキルを教えていない。

学校では、出来事を客観的に記録するとか、考えを論理的に、他人にわかるように解説する文章は実用的な文章で、感動を書く文章より価値が下がるものとして、指導されなかったようである。そして、客観的に出来事を書くよりは、「思ったこと、考えたことを書きなさい」という指導が行われていた。

文章を書く技術、スキルは、そんなことは感動をそこなうものとして嫌われ、せいぜい、文章を、

始め、中、終わり

の三つに分けて書きなさいという程度の指導しか行われていなかった。

4 日本語文章能力検定の出題と採点規準

ア 出題内容

検定に出題する問題には、文章を読んでその要旨をとらえる、語句の正しい用法を選ぶ、
など用意しているが、特に、以上に述べてきた日本人の文章作成上の欠点を補うために、
次の問題を設けている。

- ・絵を見て、そこに何が描かれているかを客観的に書く。(5～7級)
- ・文章の中の文に、欠けている5W1Hを補う。
- ・長い文を、短く切ってわかりやすい文の集まりに書き直す。
- ・段落を設けて書くという意識を持つ。
- ・条件に適合した手紙文を書く。
- ・意見・論説文を書く。

- 4級 事実を述べる
それに関する意見を述べる
- 3級 事実を述べる
それに関する意見を述べる
意見が正しいことを論証する
- 準2級 事実を述べる
それに関する意見を述べる
意見が正しいことを論証する
異なる意見を挙げて反論する

イ 採点規準

加点項目

- ・出題の意図にあった内容、意見の明確さ。
- ・論を進める上で、独自/適切な知識・経験を生かしているか。
- ・論理の展開は妥当であるか。
- ・文章構成がはっきりしているか。

減点項目

- ・表記に関する欠点(誤字、脱字、送り仮名の誤り等)
- ・語句の使用に関する欠点(語句の使用の誤り、不適切)
- ・文の構成に関する欠点(文法面での不完全、5W1Hの脱落等)
- ・文章表現に関する欠点(常体・敬体の混用、異常に長い文の出現等)

こうした項目のそれぞれについて段階を設けて、できるだけ客観的に採点されるように研究をかさねながら採点している。

検定の受検者には、検定に合格することが目的で、そのために勉強する、つまり合格が目的になってしまうが、私としては、日本人が、もっと文章を書くためのスキルを身につけ、文章力を伸ばしてくれるということを願っている。

参考文献

- 樺島 忠夫 1999 『文章表現法—五つの法則による十の方策』 角川選書
樺島 忠夫 2002 『文章術—「伝わる書き方」の練習』 角川oneテーマ

外国人の日本語力

西原鈴子

(東京女子大学)

1. 「アカデミック・ジャパニーズ」って何だろう

今年度から始まった日本留学試験の日本語試験で測定されるとされている「アカデミック・ジャパニーズ」というのは、日本の高等教育機関、特に大学に留学を希望する人達が、日本の大学で勉強するのに必要な日本語力のことです。留学生の大学生活は、講義を聴く、文献を読む、レポートを書く、実験するなどの学術的な活動と、衣食住その他を含む日常生活の二つの側面から成っています。また、そのような大学生活に関連する言語活動は、意思の疎通をするための言語的スキルと、勉学に必要な学術的知識を前提として営まれます。ですから、日本の大学等に留学を希望する人達が持つべき日本語能力は、それらの側面を全体的に包括するものと考えられます。

日本留学試験は、日本語だけでなく、数学・理科・総合科目など、基礎的な知識を測定する部分も含んでいますから、日本語試験では、専門分野の知識の有無を問う問題は最小限に留めおかれることとなります。

日本語試験で測定される日本語能力は、言語技能では、聞く・読む・書く・話す・翻訳する能力です。このうち、話す・翻訳する能力については、試験運用の面で制約があるため、間接的に測定されることになるでしょう。言語技能も、書けるか、読めるかなどの技能自体が問われるのではなく、それらの技能を総合的に駆使して、与えられた課題に取り組むという視点から測定されることとなります。

留学生に求められる言語活動は、(1)情報の流れを全体的に捉える、(2)批判的に理解する、(3)選択的に理解する、(4)推測しながら情報を分析するなどを行う論理的思考過程を支える能力によって支えられています。そしてそのような活動は、話しことば、書きことばのどちらにも関係があります。

日本に留学を希望する人達は、大学生活に必要な論理的思考能力や基礎学力は基本的には出身国・地域での初等中等教育ですでに培っています。日本へ留学する場合には、それらの能力を、日本語を媒介として発揮できるように準備することが必要になります。日本留学を目指す人達には、海外での日本語教育でも、アカデミック・ジャパニーズの育成にも力を入れることが期待されます。

2. 留学生の日本語ニーズ

留学生に必要な日本語を具体的に知るためには、「ニーズ調査」が必要です。日本語教育界では、学習希望者の日本語学習に関するさまざまな「思惑」の調査、つまり「ニーズ調査」を行うことが、教育計画設定(コース・デザイン)に先立ってまず必要であるという認識が共有されています。それは彼等のための日本語支援の一段階として不可欠であり、できる限り詳細に調査し、そ

の結果を生かすことが、学習目的達成の近道となるという考えに基づいています。調査する項目は以下のようなことです。

- ・ 何のために学習するのか。(学習目的)
- ・ 主にどのような人達と接触するのか。(接触相手)
- ・ 主にどのような状況で日本語を必要とするのか。(生活環境)
- ・ どのレベルまでの上達が必要か。(到達目標)
- ・ 話す・聞く・読む・書くなどの言語技能のうちどれが最も大切か。(優先技能)
- ・ 日本語ができることによって何が得られるか。(上達の報酬・利益)

それぞれの項目について、直接学習希望者から回答が得られる場合もありますが、調査者が推測しなければならない場合もあります。この段階が不可欠なのは、それぞれが教育計画立案において決定されるべきことと連動しているからです。調査結果によって以下のようなことが決定することになります。

- ・ 学習内容
- ・ 優先されるべき日本語のタイプ
- ・ 学習期間・訓練方法
- ・ 教授方法
- ・ 動機強化の方法

3. 留学生の学習レディネス

個々の学習者にはそれぞれの事情があり、都合があります。それは「レディネス」と呼ばれ、やはり学習計画に先立つ調査の一つとして位置付けられています。「レディネス」調査項目は、学習環境に関するものと個人的「事情・意識」に関するものがあります。学習環境に関しては以下のような条件が考えられます。

- ・ どのような期間学習できるか。(学習予定期間)
- ・ 週当たり何時間学習できるか。(週当たり時間数)
- ・ どんな時間帯に学習できるか(学習時間帯)
- ・ 自習時間は確保できるか。(自習時間)
- ・ 学習のための資金はあるか。(経済的条件)
- ・ 学習をサポートしてくれる人がまわりにいるか。(支援態勢)

個人的条件には以下のような事が挙げられます。

- ・ 日本語学習歴
- ・ 現在の日本語レベル
- ・ 過去の学習で使用した教材
- ・ 他の外国語学習経験
- ・ 学習者タイプ
- ・ 教師像の好み
- ・ 学習観

学習者側から考えられる理想的日本語教育は、ニーズ調査とレディネス調査という二種類の調査によって明らかにされる彼等の必要が、十分に満たされる日本語学習支援が適宜与えられる時に実現されるということになります。

4. 受け入れ側（大学側）が期待する日本語能力と日本留学試験

留学生を受け入れる日本の高等教育機関は、それぞれ固有の事情・条件を持っています。留学希望者は、自分側の条件と留学希望機関との条件を考え合わせて志望校を決定します。いわばその「相性」を決めるのが入学選考の過程ということになります。日本語に関しては、従来は「日本語能力試験」一級、あるいは二級合格相当の日本語能力を持つことが高等教育入学の条件として設定されてきました。今年度からは、日本留学試験がその役割を担うことになりました。すでに6月と11月に試験が行われています。

日本留学試験の特徴は、日本の高等教育機関での勉学に必要であると想定される日本語能力（アカデミック・ジャパニーズ）測定に特化したテスト・シラバスによるということ、また留学希望者が出身国・地域に留まったままで受験でき、渡日前に入学許可を得ることが可能になるということです。それらは、日本の高等教育機関が世界の教育に積極的に貢献するためには、当然採られるべき対策ですし、そのこと自体は大きな前進であると思います。

日本留学試験のシラバスでは、測定対象とする日本語能力を、留学生の日常生活および学術研究において必要とされる知識とスキルのうち、スキルに傾斜した日本語力測定を行うと発表しています。必要とされる基礎学力については、「数学」「理科」「総合科目」で測定されますし、それらを含めて知識の獲得は入学後も継続するべきものであることが、スキルに傾斜した日本語力測定を行う理由です。

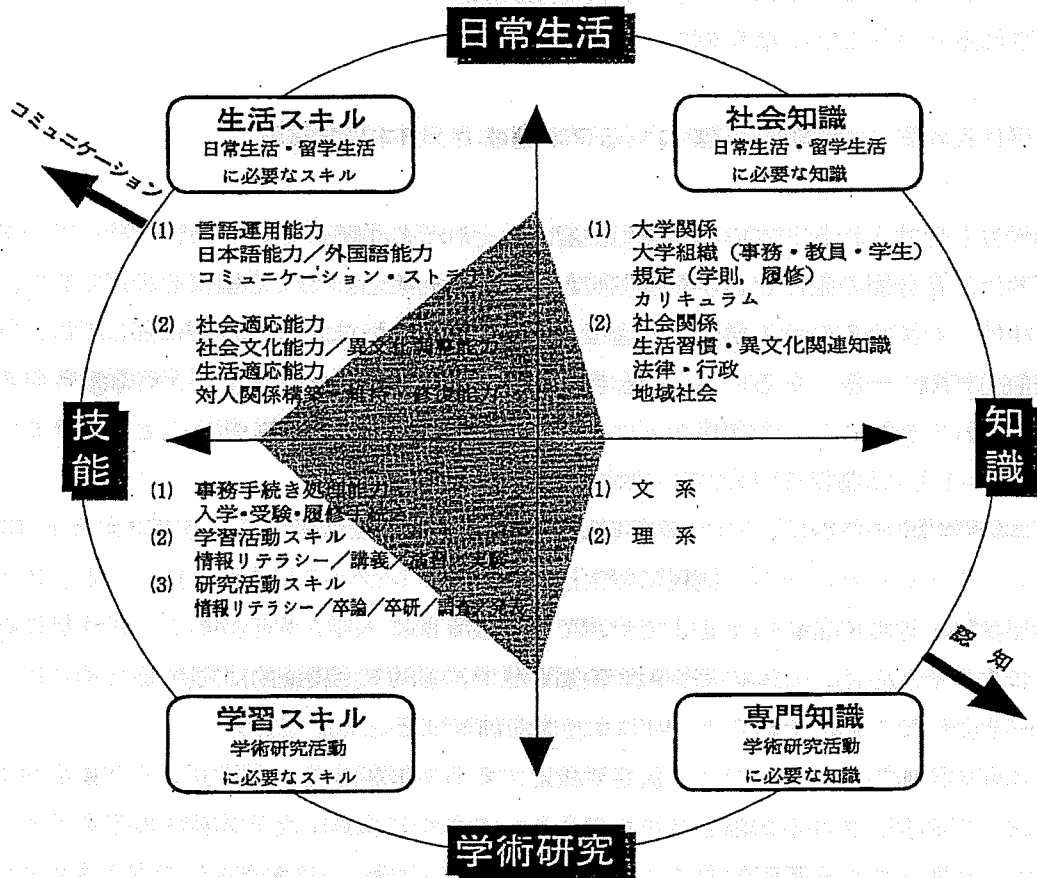
日本語シラバス

I 測定対象能力

この試験が測ろうとする能力は、下記概念図の網かけ部分である。

この試験は、単に日本語に関する知識の有無や知識の量を測定するアチーブメント・テストではない。また、日本での生活能力があるかを測る人格テストでもない。

この試験は、日本での留学生活をおくる上で、日本語によるコミュニケーション能力があるかどうか、また、自国での初等・中等教育修了までに習得した知識を前提としながら、日本の大学で学習・研究活動を行うための日本語能力があるかどうかを測定する言語テストであり、かつ、標準テストである。



言語教育の世界では、「言語能力」を論じる際に、「ことばを正確に運用する文法能力を持っていること」だけでなく、目的に応じた話の組み立て方(談話能力)、文脈や立居振舞いに配慮する能力(社会言語的能力)、言語的能力の不足をカバーして場面に即応しながら適切に伝達目的を達成する工夫をする能力(方略能力)などを包括的に捉える概念として定義付けています。その意

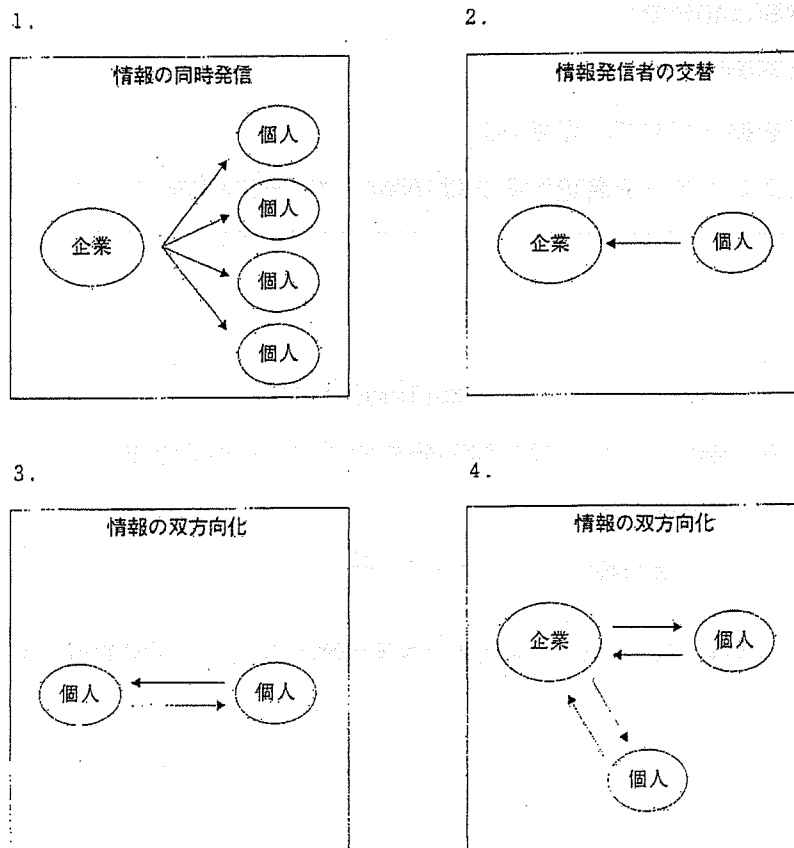
味で、日本留学試験の測定対象能力は、留学生に期待される日本語能力を幅広く測定する目的に
かなったものであると言えます。

日本留学試験のシラバスは、このほか、言語的課題、言語技能とその下位分類、表現類型、話
題（トピック）、場面、言語・非言語的要素などについて解説したうえで、例題を付加して解説し
ています。このシラバスに示されている測定対象能力を、日本の高等教育機関が留学希望者に期
待する一般的な日本語能力の水準であると仮定しますと、テストの常として、測定結果は広い分
布を示すことになります。

聴読解問題の例：先生が IT 技術について話しています。

この先生が IT 技術の発達の結果として話していることを図にするとどのようになりますか。

先生：IT 技術の進歩によって、情報の発信者と受信者のあり方もさまざまに変化してきまし
た。IT 技術の革新によってもたらされた大きな変化の1つに、情報の双方向化ということ
があげられます。これまで、情報というと、新聞やテレビなどの媒体を有する比較的資本
の大きな企業から発信され、私たち個人がそれを受信するというものでした。この発信受
信の流れは一方的なものであったわけですが、IT 技術の発達によって、ここに大きな変化
があらわれました。一方的に受信する側だった受け手が、みずから発信する手段を手に入れ
、企業に向けて発信する側にもまわり、しかもそれが容易に行えるようになったわけ
です。



(財団法人日本国際教育協会編『平成14年度日本留学試験(第2回)試験問題』桐原書店による)

読解問題の例：

これは、図書館館内ツアーの案内のプリントです。

図書館ツアーについて正しいものはどれですか。

図書館 館内ツアー

大学では、上手に図書館を活用することが、勉学を成功させる鍵^{かぎ}となります。図書館ツアーに参加して、必要な情報をすばやく手に入れるノウハウを身に付けましょう。図書館員が丁寧に、図書館内を案内します。

期間：4月9日(月)～4月11日(水)

集合：希望時間の開始10分前までに図書館ロビーへ

開始時間 11時, 13時, 14時, 15時, 16時

注意：所要時間は40分です。

予約は不要です。

学生証を持ってきてください。

英語によるツアーを希望する方は16時のツアーに参加してください。

1. 14時のツアーに参加したら、ツアーは14時30分に終わります。
2. 英語のツアーに参加したい人は15時50分までにロビーへ行きます。
3. 図書館を使う人は鍵^{かぎ}が必要です。
4. 事前に予約をして、学生証を持っていきます。

(財団法人日本国際教育協会編『平成14年度日本留学試験(第2回)試験問題』桐原書店による)

韓国ビジネスマンの日本語力 - 韓国のJPTテストについて -

李明姫

(新羅大学校)

mhlee@silla.ac.kr

1. 韓国のJPTテストとは

韓国のJPTテストは文法、語彙などの日本語の知識を測定するのではなく、言語本来の機能である意志疎通の能力を測定するテストである。そのため、使用頻度が低く、慣用的、学問的な語彙は排除され、東京を中心とした標準語を対象に作られている。なお、テストは日本人と一っしょに話をしている場面を仮定しており、日本語の意志疎通能力のレベルを正確に評価することができる。現在、韓国の大部分の企業での職員の日本語能力評価テストとして採択されており、学校の受験や就職時にもJPTの点数が大いに参考されている。

2. テスト問題の構成と類型

テスト問題は大きくわけて聴解問題と読解問題から構成される。問題の難易度は初級から上級まで一定の比率で配分し、全受験生共通の問題を出題しているため、すべての受験者に対応している。難易度の構成比率は日本語能力試験の1級、2級、3級、4級に当たる問題が各19%、28%、30%、23%となっている。

問題	Part	問項	時間	配点
聴解問題	1) 写真描写問題	20	45分	495点
	2) 質疑応答問題	30		
	3) 会話文問題	30		
	4) 説明文問題	20		
読解問題	5) 語彙問題	20	50分	495点
	6) 誤文訂正問題	20		
	7) 穴埋め問題	30		
	8) 読解問題	30		
	合計	200	95分	990点

3. 点数別言語能力評価表

- A (880点以上) : 充分なコミュニケーションができるレベルである。
- B (740点以上) : どのような状況下でも適切なコミュニケーションができる能力である。
- C (460点以上) : 制限された範囲内でのコミュニケーションが可能である。
- D (220点以上) : 日常生活で最小限のコミュニケーションが可能である。
- E (220点以下) : コミュニケーションがほとんど不可能なレベルである。

4. パート別出題傾向分析

<聴解 Part >

1) 写真描写問題

写真描写問題 (20問題) では人の様子を聞く問題が30%、状況描写が30%、そして看板や施設物をみて聞く問題が残りを占めている。

問題例1、2) 次の写真を見て、その内容に合っている表現を(A)から(D)の中で一つ選びなさい。



(A) (B) (C) (D)

(A) おとこのひとがうたをうたっています。

(B) おとこのこがなにかをはなしています。

(C) おんなのひとがうたをうたっています。

(D) おとこのひとがなにかをはなしています。

正解 D



(A) (B) (C) (D)

(A) みんなて(手)をあげてたいそうしています。

(B) みんなみぎ(右)のて(手)をひろ(広)げています。

(C) みんなて(手)をあげてこえ(声)をだ(出)しているようです。

(D) みんないっしょにさんぽしています。

正解 C

2) 質疑応答問題

単答型問題 (30問題) では日常生活の公式的な会話が70%をしめている。

問題) 次の言葉の返事として、もっとも適したものを(A)から(D)の中で一つ選びなさい。

例) このごろ具合はいかがですか。

(A) はい、たいへん難しいですね。

(B) すこし勉強しています。

(C) はい、おかげさまで元気に過ごしております。

(D) とんでもないですね。

正解 C

3) 会話文の問題

全部で30問であり、二人の対話を聞いて状況と雰囲気把握の問題である。

問題) 次の会話をよく聞いて、後の問いにもっとも適したものを(A)から(D)の中で一つ選びなさい。

例) A: 時間ないですから急ぎましょう。

B: タクシーで行きましょうか、それともバスで...

A: 駅はすぐあそこですよ。

二人は何に乗って行きますか。

(A) バスで行きます

(B) 歩いて行きます

(C) 電車でいきます

(D) タクシーで行きます

正解 C

4) 説明文の問題

比較的短い説明文をテープで聞いて、提示されたいくつかの問題を解かなければならない。したがって、会話文より複雑である。説明文の内容は主に駅や空港、デパートなどの案内放送、気象情報などの様々な情報案内、ラジオやテレビのニュースとCMなどである。

長文聴取問題(20問題)の最近の傾向は日本語能力試験1級レベルの問題5~6問題が出ている。

問題) 次の会話をよく聞いて、後の問いにもっとも適したものを(A)から(D)の中で一つ選びなさい。

改札口を出てすぐ前の道を80メートルぐらい行くと、左手に小さな書店があります。その手前を左に入ってその道をしばらく行くと左側に薬局があります。そのとなりの青っぽい建物です。迷った時は、書店の向かい側の交番で聞いてください。

例1) この人がこれから行く建物のとなりには何がありますか。

(A) 本屋

(B) 交番

(C) 薬局

(D) 青っぽいビル

正解 C

例2) 最初にどこでどちらに曲がりますか。

(A) 書店の手前の道を右へ曲がります。(B) 書店の手前の道を左へ曲がります。

(C) 書店の先の道を左へ曲がります。(D) 交番の手前を右へ曲がります。

正解 B

<読解 Part >

5) 語彙探し

仮名と漢字の表記及び同じ用法や意味を探す問題などで構成されている。漢字の正しい表記と読みをはじめ、文章の中で単語や語句が持っている用法を把握しなければならない。

文字、語彙問題(20問題) 10番以後の語彙問題が最近はかなり難易度が高くなっている。

問題) 下の問題にもっとも適した答えを(A)から(D)の中で一つ選びなさい。

例) 来年の会社の経営戦略をはかるために明日会議が開かれる。

(A) 量

(B) 測

(C) 計

(D) 図

正解 C

6) 誤文訂正問題

文法上の誤りを探す問題である。文章全体の意味を把握した後、文章の流れと一致しない文法事項を探し出さなければならないので、正確な文法知識と語彙力が要求される。受験生が最も難しく思うパートであり、20題が出題される。

問題) 下線部の(A) (B) (C) (D)の中で間違っているものはどれですか。一つ選びなさい。

例) 日本へ留学に行けば大阪より東京のほうがいいと思いますが

(A) (B) (C) (D) 正解 B

7) 穴埋め問題

不完全な文章を文の前後関係を正確に把握して完全な文章として完成できるかを評価するもので、文法、語彙、慣用句などの幅広い知識が要求される問題である。文章内での単語が持つ文法または意味上の使い方を聞く問題などが出題されるので、慣用句を含んだゆたかな語彙力が要求される。

問題) 下の _____ 線に入る適当な言葉を(A)~(D)の中で一つ選びなさい。

例) その中小企業はすごい。大企業 _____ の黒字をあげているのだから。

(A) なみ (B) よう (C) なり (D) みたい 正解 A

8) 読解文問題

表面的な理解力より、日常生活において頻繁に使用される文字情報をどれぐらい速く、正確に把握できるかを評価する問題である。長文読解問題(30問題)として問題を解くのに難しくはないが、速読と速解を要求しているので時間が絶対的に足りないパートである。ポスター、案内書、説明書、手紙、新聞、雑誌などから出題されている。

問題) 何の手紙ですか。

君の早耳には驚くね。おおせのとおり、今度本社詰めに決定しましたが、実のところ、どうにも不安だ。なにぶん今まで地方詰めでのんきな暮らしに慣れてしまっているが、当分息を切らさねばなるまいと思う。何か重苦しい不安だけが先にたつ。が、とにかく力の限り、大いに頑張るつもりではいるが、どうか、よろしくご助力を頼む。乱筆で失敬だが、まずはお礼まで申し上げる。御自愛のほど切に。

- (A) 栄転の通知
- (B) 栄転の手紙を受けてからの返事
- (C) 同僚の全快を祝う手紙
- (D) 先輩の全快を祝う手紙

正解 B

出典：『JPT実践問題集』東洋文庫 李長雨著 2001年
『JPT総合問題集』東洋文庫 李長雨著外1人 1998年

<http://www.ybmsisa.co.kr/language/jpt/intro.asp>

日本人の英語力：定義と測る方法

ランディー・スラッシャー

(沖縄キリスト教短期大学教授／国際基督教大学名誉教授／日本言語テスト学会副会長)

英語の能力を抽象的なかたちで表すことはできません。英語の能力が十分かどうかを漠然と論じることに意味はありません。必ず何の目的のための英語能力かを明らかにしなければなりません。ホテルの事務と同時通訳とでは必要とされる英語能力に違いがあります。その立場にふさわしい語学力があるかどうかを私たちは個々の能力としてみていかなければなりません。個々の能力をみるには様々な方法がありますが、ひとつの方法で全てを測れるような良い方法は無いのです。

海外への留学に必要な英語能力を理解するにあたって、以下の二つのことに注目する必要があります。ひとつは、志望する大学ではどのような教育が行われているのかということ、もうひとつは、その大学が学生の英語能力を独自に調べているかどうかということです。そこで、私の母国である米国では大学教育がどのように行われているか、外国からの学生をどのように選別しているかを、ミシガン大学のミシガンテスト (MTELP) と、The Test of English as a Foreign Language [TOEFL] を例にとって、歴史的に見ていきたいと思います。最後に、英語能力測定の現状について若干述べさせていただきます。

アメリカ合衆国における英語能力試験—小史

試験施行以前

1960年までは、留学希望者が自国内で出身国の教師により試験され推薦される制度
ミシガン英語能力テスト

1958年 ロバート ラドーの博士論文

1960年 選択方式とエッセーテストの組み合わせ100題が紹介された。

トーフル (TOEFL)

1962年 National Council on the Testing of English as a Foreign Language 研究
開始

1964年 トーフル5項目テスト導入

1976年 改定3項目導入

1981年 Test of Spoken English (TSE) 導入

1986年 Test of Written English (TWE) 導入

1998年 コンピューター考査 導入

2000年 同上テスト日本に紹介された。

2005年 「トーフル2000」が紹介される予定

例題

ミシガンテスト Michigan Test of English Language Proficiency

文法 (40問)

Example A "What is that thing?" a) to call
"That _____ a spider." b) for calling
c) be called
d) is called

The correct English sentence is: That is called a spider.

(正しい文は、That is called a spider. すなわち正解は d)

語彙 (40問)

Example B: It's too windy to go for a stroll.
a) swim b) sail c) drive d) walk

The word 'walk' means the same thing as 'stroll' in this sentence.

('walk' 「歩く」と 'stroll' はこの文では同じ意味なので、d が正解)

Example C: Because of the storm and rough waves, it would be foolish to go out
sailing today in a small _____.
a) automobile b) house c) boat d) beast

The word 'boat' best fits in the sentence.

(この文の空欄に入る語としては、'boat'が最も適した意味を持つので、c が正解)

読解力 (20問)

Example:

While I was getting ready to go to town one morning last week, my wife handed me a little piece of red cloth and asked if I would have time during the day to buy her two yards of cloth like that. I told her I would be glad to do it. And putting the piece of cloth into my pocket, I took the train for town.

Question: The person telling the story is

- a) a married lady
- b) an unmarried lady
- c) a married man
- d) an unmarried man

You know the person telling the story is a married man because he says "my wife".
(文章の中で、"my wife"「私の妻」と言っており、この話は結婚している男性のことだとわかるので、正解はc)

エッセー (30分)

"Describe the most beautiful city you have ever visited."

『これまでに訪れたもっとも美しいと思った街について書いてください。』

(以上の例は Upshur et al 1964 による)

TOEFL(トーフル) 筆記テスト Test of English as a Foreign Language

セクション1: 聞き取り

著作権の都合上，削除しました。

著作権の都合上，削除しました。

著作権の都合上，削除しました。

セクション2：文構造と表現

著作権の都合上，削除しました。

セクション3：語彙と文章理解

ミシガンテストと同様

(以上の例は Bachman et al 1995 pg.172-5 による)

参考文献

- Bachman, Lyle F. and Adrian S. Palmer 1996 *Language Testing in Practice* Oxford University Press
- Bachman, Lyle F., Fred Davidson, Katherine Ryan, Inn-Chull Choi 1995 *An Investigation into the Comparability of Two Tests of English as a Foreign Language: The Cambridge-TOEFL Comparability Study* Cambridge University Press
- Brown, James Dean and Jacqueline A. Ross 1996 Decision Dependability of Subtests, Tests, and the Overall TOEFL Test Battery Chapter 13 in Milanovic and Saville
- Chapelle, Carol, William Grabe, Margie Berns 1997 *Communicative Language Proficiency: Definition and Implications for TOEFL 2000* TOEFL Monograph No. 10 Educational Testing Service (ETS)
- ITP TOEFL, Section 1-Listening* <http://www.toefl.org/onsitetst/itpsec1.html>
- ITP TOEFL, Section 2-Structure & Written Expression* <http://www.toefl.org/onsitetst/itpsec2.html>
- ITP TOEFL, Section 3-Reading Comprehension* <http://www.toefl.org/onsitetst/itpsec3.html>
- Jamieson, Joan, Stan Jones, Irwin Kirsch, Peter Mosenthal, Carol Taylor 2000 *TOEFL 2000 Framework: A Working Paper* TOEFL Monograph No. 16 ETS
- Milanovic, Michael and Nick Saville editors 1996 *Performance Testing, Cognition and Assessment: Selected Papers for the 15th Language Testing Research Colloquium, Cambridge and Arnhem* Cambridge University Press
- Next Generation TOEFL to Premier in Sept. 2005 <http://www.ets.org/news/03032501.html>
- Rosenfeld, Michael, Susan Leung, Philip K. Oltman 2001 *The Reading, Writing, Speaking, and Listening Tasks Important for Academic Success at the Undergraduate and Graduate Levels* TOEFL Monograph No. 21 ETS
- Spolsky, Bernard 1995 *Measured Words* Oxford University Press
- Taylor, Carol 1996 A Study of Writing Tasks Assigned in Academic Degree Programs: A Report on Stage 1 of the Project Chapter 6 in Milanovic and Saville
- TOEFL Bulletin* 2002 Educational Testing Service
- TOEFL Test and Score Data Summary 2001-2002 edition* 2001 ETS
- Upshur, John et al 1964 Michigan Test of English Language Proficiency Form C The English Language Institute of the University of Michigan
- Waters, Alan 1996 *A Review of Research into Needs in English for Academic Purposes of Relevance to the North American Higher Education Context* TOEFL Monograph No. 6 ETS

ヨーロッパの言語テスト

杉本明子

(国立国語研究所)

akikos@kokken.go.jp

1. はじめに

現在、ヨーロッパでは、ヨーロッパ諸国の様々な言語テストを比較する共通枠組みが作られ、各々の言語テストの位置づけが明確化されています。この中心的役割を担ってきたのが、ヨーロッパ言語テスト協会 (The Association of Language Testers in Europe : 以下ALTE 略す) です。ALTEとはどのような機関で、どのような目的のために創設されたのでしょうか。言語テストの共通枠組みとはどのようなものなのでしょうか。

この発表では、次のことについて解説します。

- ALTEとは?
- ALTE創設の経緯
- ALTEの目的
- ヨーロッパの言語テストの共通枠組み (ALTE Framework)
- 共通枠組み (ALTE Framework) の言語能力レベル

2. ALTEとは?

・ALTEは、ヨーロッパにおいて、各国(各地域)の母語として話されている言語テストを作成・実施し、合格証明書を発行している機関の共同体です。

・ALTEの概念は、1989年に、Cambridge大学(英国)とSalamanca大学(スペイン)によって考案されましたが、1990年の最初の会議には8機関が参加しました。それ以後、参加機関が増え続け、現在では27機関が加盟しています(表1)。

表1 ALTEの加盟機関と対象言語

Basque (バスク語)	Basque Government
Catalan (カタロニア語)	Generalitat de Catalunya
Danish (デンマーク語)	Danish Language Testing Consortium
Dutch (オランダ語)	CITOGroep
English (英語)	Certificaat Nederlands als Vreemde Taal (CNaVT)
Estonian (エストニア語)	University of Cambridge ESOL Examinations
Finnish (フィンランド語)	National Examination and Qualification Centre
French (フランス語)	University of Jyväskylä
German (ドイツ語)	Alliance Française
Greek (ギリシア語)	Centre International d'études pédagogiques
Hungarian (ハンガリー語)	Goethe-Institut Inter Nationes
Italian (イタリア語)	WBT Weiterbildungs-Testsysteme GmbH
Latvian (ラトビア語)	University of Athens
Lithuanian (リトアニア語)	Idgennyelvi Továbbképző Központ (ITK)
Luxembourgish (ルクセンブルク語)	Università per Stranieri di Perugia
Norwegian (ノルウェー語)	Naturalisation Board of Latvia
Portuguese (ポルトガル語)	Vilnius University
Polish (ポーランド語)	Centre de Langues Luxembourg
Russian (ロシア語)	Norwegian Language Testing Consortium
Slovenian (スロベニア語)	Universidade de Lisboa
Spanish (スペイン語)	Jagerllonian University, Instytut Polonijny
Swedish (スウェーデン語)	Russian Language Testing Consortium
Welsh (ウェールズ語)	Univerza v Ljubljani
	Instituto Cervantes
	Universidad de Salamanca
	Stockholms Universitet Centre for Research on Bilingualism
	& Department of Scandinavian Languages
	Welsh Language Board & Welsh Joint Education Committee Consortium

3. ALTE 創設の経緯

第2次世界大戦以降、ヨーロッパ諸国は、共通の外交・安全保障、及び、経済・社会・文化・科学の発展のために結束する方向で歩んできました。1987年に単一欧州議定書が発効し、1993年の欧州連合条約（マーストリヒト条約）によってEU市民はEU諸国内での自由な居住、学問、労働、開業等を保証されるようになると、ヨーロッパにおける政治、経済、文化の交流は益々活発に行われるようになってきました。しかし、その際に立ちほだかったのが言語の壁だったのです。

ヨーロッパでは、国・地域により様々な言語が使用されていますので、政治・経済・科学等の交流が活発化すると、お互いの言語・文化を理解し、コミュニケーションを円滑に行うことが重要な課題になってきます。特に、労働者が国家間で移動する機会が多くなると、雇用者にとって（外国人）労働者が持つ言語能力の証明書の重要性が顕著になってきました。しかし、ALTEが発足するまでは、各国・各地域で個別に言語テストが実施され証明書が発行されていましたので、其々の証明書が何を意味するのか、どの程度の言語能力が保証されているのかがわからないという状況にありました。

こうして、ヨーロッパ諸国・地域で個別に発行されていた言語能力の証明書を比較する必要性が認識されるようになってきました。すなわち、雇用者は採用募集の広告でどの言語能力証明書を要求すればよいのかを知るために、また、労働者は自分の現時点での言語能力を診断し、今後必要な訓練を見極めるために、異なる言語テストを比較・対照する共通枠組みが必要になってきたわけです。

このような経緯からALTEが創設され、加盟国が協同で異なる言語テストを比較する共通枠組みを開発してきたのです。

4. ALTE の目的

- 1) 様々な言語テストの証明書を比較するために、言語の熟達度の共通枠組を確立する。
(教育・ビジネス場面における資格としての認識のされ方、異なるスキルの相対的重要性、各試験問題の照準、質問の数とタイプなど)
- 2) 言語テスト作成過程の全段階（テスト課題・項目の作成、テストの実施、テストの採点・評価、テスト結果の報告、テストの分析と結果の報告）において、共通の規準を確立する。
- 3) 国際的な共同プロジェクトを実施し、アイデアやノウハウを交換する。

5. ヨーロッパの言語テストの共通枠組み (ALTE Framework)

ヨーロッパの言語テストを比較する共通の枠組み (ALTE Framework) は、表2に示す通りです。

6. 共通枠組み (ALTE Framework) の言語能力レベル

共通枠組み (ALTE Framework) における言語能力レベルは、表3に示す通りです。

下の表2では、各言語ごとにどのような言語テストがあり、其々が共通枠組みのどのレベルに位置するのかが示されています。

表2 ヨーロッパの言語テストを比較する共通の枠組み (ALTE Framework)

Level Language	A1 ALTE Breakthrough	A2 ALTE Level 1	B1 ALTE Level 2	B2 ALTE Level 3	C1 ALTE Level 4	C2 ALTE Level 5
Català		Certificat de nivell bàsic de català	Certificat de nivell elemental de català	Certificat de nivell intermedi de català	Certificat de nivell suficiència de català	Certificat de nivell superior de català
Dansk		-	Almenprøve 1	Almenprøve 2	Danskprøve 2	-
Deutsch		Grunbaustein Deutsch als Fremdsprache (GBS DaF)	Zertifikat Deutsch (ZD)	-	Zentrale Mittelstufenprüfung (ZMP)	Zentrale Oberstufenprüfung (ZOP) Kleines Deutsches Sprachdiplom (KDS)
English		Key English Test (KET)	Preliminary English Test (PET)	First Certificate in English (FCE)	Certificate in Advanced English (CAE)	Certificate of Proficiency in English (CPE)
Español		-	Diploma de Español (Nivel Inicial)	Diploma de Español (Nivel Intermedio)	-	Diploma de Español (Nivel Superior)
Euskara					Euskararen Gaitasun Agiria (EGA)	
Français		Certificat d' Etudes de Français Pratique 1 (CEFP 1)	Certificat d' Etudes de Français Pratique 2 (CEFP 2)	Diplôme de Langue Française (DL)	Diplôme Supérieur d'Etudes Françaises Modernes (DS)	Diplôme de Hautes Etudes Françaises (DHEF)
Ellhniká		-	BebaËvsh Ellhnomageial (Veveosi Elinomathias)	-	-	-
Italiano		Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana, Livello 1 (CELI 1)	Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana, Livello 2 (CELI 2)	Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana, Livello 3 (CELI 3)	Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana, Livello 4 (CELI 4)	Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana, Livello 5 (CELI 5)
Lëtzebuergesch		Zertifikat Lëtzebuergesch als Friemsprooch (ZLaF)	Ëischten Diplom Lëtzebuergesch als Friemsprooch (1DLaF)	Zweten Diplom Lëtzebuergesch als Friemsprooch (2ZLaF)	-	Ieweschten Diplom Lëtzebuergesch (IDL)
Nederlands		-	-	Staatsexamen Nederlands als Tweede Taal, Examen I (NT2- I); (CITO) Profiel Professionele Taalvaardigheid (PPT); (CNaVT)	Staatsexamen Nederlands als Tweede Taal, Examen II (NT2- II); (CITO) Profiel Academische Taalvaardigheid (PAT); (CNaVT)	-
Norsk		-	Språkprøven i norsk for voksne innvandre	-	Test i norsk for fremmedspråklige Høyere nivå	-
Português		Certificado Inicial de Português Língua Estrangeira (CIPEL)	Diploma Elementar de Português Língua Estrangeira (DEPLE)	Diploma Intermédio de Português Língua Estrangeira (DIPLE)	Diploma Avançado de Português Língua Estrangeira (DAPLE)	Diploma Universitário de Português Língua Estrangeira (DUPLE)
Suomi		Suomen kieli, perustaso 1	Suomen kieli, perustaso 2-3, keskitaso 3	Suomen kieli, keskitaso 4-5, ylin taso 5	Suomen kieli, ylin taso 6	Suomen kieli, ylin taso 7-8
Svenska		-	-	-	Test in Swedish for University Studies (TISUS)	Test in Swedish for University Studies (TISUS)

表3 共通枠組み (ALTE Framework) の言語能力レベル

レベル	聴く・話す	読む	書く
C2 Level 5	複雑で繊細な問題について助言したり話したりすることができる。また、話し言葉での参照・引用を理解でき、敵対的な質問に対しても自信を持って回答することができる。	複雑な文章で微妙な点を含む文書やレポートを理解することができる。	どのような話題についての手紙や会議・セミナーのノートでも、豊かな表現を用いて正確に書くことができる。
C1 Level 4	自分の仕事の領域において会議・セミナーに効果的に貢献することができる。また、抽象的な表現を用いて流暢に話し、因果関係の流れを含む会話についていくことができる。	学術専門コースで学んだり、メディアから情報を得たり、標準的でない文書を理解するのに十分な速読ができる。	専門的な文書を書いたり、会議で正確なノートをとったり、コミュニケーション能力を示す随筆を書くことができる。
B2 Level 3	よく知っているトピックについて理解し話すことができる。また、かなり広い範囲のトピックに関する会話についていくことができる。	関連情報を得るために文章の走り読みができ、詳細な指示や助言を理解することができる。	誰かが話していることについてノートをとることができ、標準的でない要求を含む手紙を書くことができる。
B1 Level 2	抽象的・文化的なことについて、限定的ではあるが意見をいうことができる。また、既知の領域で助言ができ、指示や公的な報告が理解できる。	きまりきった情報や記事を理解でき、よく知っている領域ではきまりきった情報でなくても一般的な意味を理解できる。	よく知っていることや予測できることについて、手紙を書いたり、メモをすることができる。
A2 Level 1	日常的な場面で、簡単な意見を述べたり、要求をすることができる。	製品、標識、簡単な教科書・レポートなど、既知の領域の情報を理解することができる。	書類に記入したり、個人的な情報に関する短くて簡単な手紙や葉書を書くことができる。
A1 ALTE Breakthrough level	基本的な指示が理解でき、基本的な事実に関する会話に参加できる。	基本的な通知・報告、指示、情報が理解できる。	簡単な書類に記入したり、時間、日付、場所を含むメモをすることができる。

7. おわりに

ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパの多様な言語・文化の相互理解と欧州市民同士のコミュニケーションを促進するために、言語学習・教育の改革と支援を重要な課題と取り組んできました。その中で、ALTEは、ヨーロッパの多言語政策を推進するための中心的役割を担ってきたと言えます。その活動の成果は、今後、私たちが日本語力や日本語能力試験について考えていく上で、新しい視点を与えてくれるでしょう。

注) 本発表における表は、ALTE のホームページ (www.alte.org) に掲載されている表を基に作成しました。